

## 外来生物同定支援の体制とこれまでの対応状況について（詳細）

## 特定外来生物の流通経緯・発見場所と事後対応の例

| 年度       | 種名                   | 流通経緯・発見場所                                              | 事後対応                                          |
|----------|----------------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 平成 19 年度 | アカカミアリ               | 沖縄県那覇税関で、タイから輸入されたショウガの袋に随伴しているアリが発見された。               | 同定結果を報告した。                                    |
|          | ハイイロゴケグモ             | 宮城県宮崎港で発見された。                                          | 同定結果を報告した。                                    |
| 平成 20 年度 | アカカミアリ               | オーストラリア→マレーシア→東京港大井埠頭の経路で輸入されたバナナのコンテナにアリが紛れていた。       | 同定結果を報告した。当該コンテナは 48 時間、臭化メチルに燻蒸が行われた。        |
|          | アカカミアリ               | フィリピン→東京港大井埠頭の経路で輸入されたバナナからアリが発見された。                   | 同定結果を報告した。輸入されたバナナは全て青酸ガスによる 30 分間の燻蒸が行われた。   |
|          | セアカゴケグモ、<br>ハイイロゴケグモ | 鹿児島県の企業の石油基地において発見された。                                 | 同定結果を報告した。                                    |
|          | キョクトウサソリ科            | 佐賀県の衣料品販売店で発見された。発見された状況から中国から輸入された衣類に混入していた可能性が考えられた。 | 同定結果を報告した。                                    |
| 平成 21 年度 | セアカゴケグモ              | 香川県の工場内の側溝で発見された。                                      | 同定結果を報告した。坂出市より報道発表がなされた。                     |
|          | ウチダザリガニ              | インターネットオークションに出品された。                                   | 同定結果を報告した。オークション運営サイトに出品取り下げを要求した。            |
|          | <i>Cherax</i> 属      | インターネットオークションに出品された。                                   | 同定結果を報告した。サイト管理者に削除依頼をするとともに、警察へ届け出が出された。     |
|          | オオキンケイギク             | 北海道の農園に植えられていた。                                        | 同定結果を報告した。                                    |
| 平成 22 年度 | セアカゴケグモ              | 鹿児島県浜見港で発見された。                                         | 同定結果を報告した。現地に駆除及び住民周知をお願いした。南日本新聞に発見記事が掲載された。 |
|          | フクロギツネ               | 動物プロダクションにおいて、誤認識                                      |                                               |

|        |           |                                                      |                                                                         |
|--------|-----------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
|        |           | で15年以上飼育してきた。<br>同定結果を報告した。                          |                                                                         |
|        | キョクトウサソリ科 | 三重県のスーパーで発見された。流通<br>経緯は不明。                          | 同定結果を報告した。                                                              |
| 平成22年度 | アレチウリ     | 大分県日田市の河川敷で発見された。                                    | 同定結果を報告した。                                                              |
|        | カニクイザル    | 誤認識で長年飼育してきた。                                        | 同定結果を報告した。                                                              |
|        | アルゼンチンアリ  | イタリア→成田空港の経路で輸入さ<br>れた貨物(切花)からアリが発見され<br>た。          | 同定結果を報告した。貨物にはコナカ<br>イガラムシ科及びアザミウマ科の昆<br>虫も付着していたため、青酸ガスによ<br>る消毒が行われた。 |
| 平成23年度 | アカカミアリ    | 植物防疫所による検疫により、コンテ<br>ナ内のカカオ豆に生きたまま付着し<br>ているアリを発見した。 | 特定外来生物アカカミアリとする同<br>定結果を環境省近畿地方環境事務所<br>へ報告した。                          |
|        | アライグマ     | 無許可飼育していた疑いで押収され<br>た個体                              | 特定外来生物アライグマとする同定<br>結果を環境省近畿地方環境事務所へ<br>報告した。                           |
|        | オオクチバス    | 無許可飼育していた疑いで押収され<br>た個体                              | 特定外来生物オオクチバスとする同<br>定結果を環境省近畿地方環境事務所<br>へ報告した。                          |

## 同定結果

同定結果における各分類群の割合を下図に示した。昆虫類とクモ類・サソリ類の割合は全体の約7割を占めた。

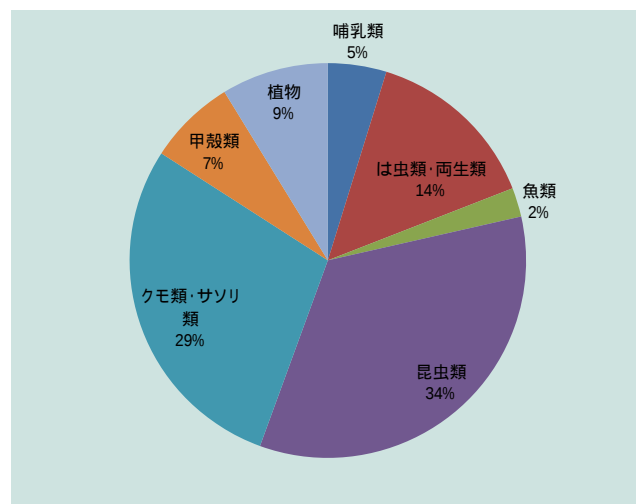


図 各分類群の割合

## 各分類群における傾向

### ほ乳類（6件）

誤認識で長年飼育してきた例（フクロギツネ、カニクイザル）や、野外で発見された例（ヨツユビハリネズミ）があった。

### は虫類・両生類（18件）

コンテナ内で発見される例（チュウカヒキガエル）や、野外で発見される例（ヨツユビリクガメ）があった。

### 昆虫類（43件）

同定依頼の多く（22件）は、アリ類であった。住宅に侵入してきた例や輸入した貨物や木材梱包などにまぎれていた例などがあった。このうち特定外来生物（アカカミアリ、アルゼンチンアリ）と同定されたものは、税関・植防から依頼された例のみであった。

### クモ類・サソリ類（36件）

同定依頼の多く（32件）は、クモ類であった。特定外来生物（セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ）と同定された例は一般と企業の両方であった。また税関・植防からの同定依頼はなかった。

### 甲殻類（9件）

ザリガニ類の同定依頼が9件であった。このうちインターネットオークションで扱われた例が3件、うち2件が特定外来生物（ウチダザリガニ、*Cherax*属）、1件がRDB種（ニホンザリガニ）であった。

### 植物（11件）

このうち一般からオオキンケイギクやアレチウリではないかという例が4件、税関・植防から種類名証明書の添付が必要な生物ではないかという例が2件あった。また、ハルシヤギク属の1種を金鶏菊として販売されていたものに関する問い合わせ例が1件あった。